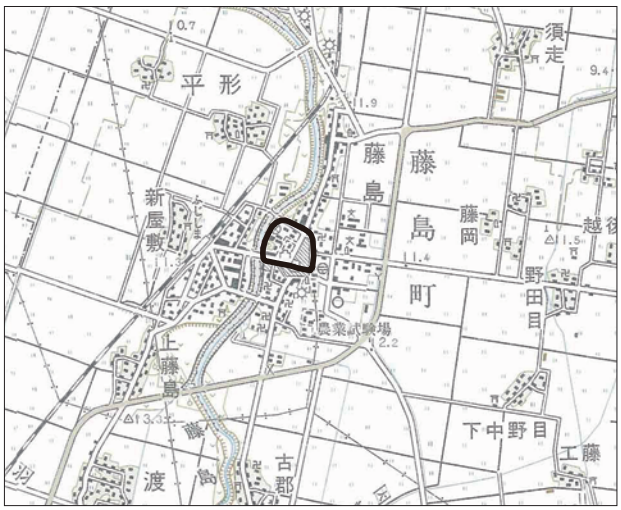
（2）調査遺跡の概要

藤島城跡（第７次）

遺 跡 番 号　423-034
調 査 次 数　第７次
所　在　地　山形県鶴岡市藤島字古楯跡 221
北緯・東経　38 度 46 分 11 秒・139 度 54 分 01 秒
調査委託者　山形県教育庁総務課
起 因 事 業　山形県立庄内農業高等学校ライスセンター改築事業
調 査 面 積　237.6 ㎡
受 託 期 間　平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
現 地 調 査　平成 30 年 5 月 28 日～ 7 月 6 日
調査担当者　齋藤健（現場責任者）・吉田満
調 査 協 力　山形県立庄内農業高等学校、鶴岡市教育委員会、鶴岡市、庄内教育事務所
　　公益財団法人藤島文化スポーツ事業団
遺 跡 種 別　城館跡
時　　代　中世
遺　　構　土坑・柱穴・井戸跡
遺　　物　陶磁器・石製品・金属器　（文化財認定箱数：４箱）



遺跡位置図 (S=1:50,000)

調査の概要

藤島城は、14 世紀南北朝時代にさかのぼり、出羽における南朝方の主要拠点であったと言われているが、これまでの調査でその時期に遡る遺構や遺物は確認されていない。14 世紀中頃から土佐林氏が城主となり、大宝寺 (武藤) 氏と対立と服従を繰り返す。元亀 2 年 (1571 年) に土佐林禅棟が大宝寺義氏に滅ぼされた後、大宝寺氏、最上氏、上杉氏と城主が目まぐるしく入れ替わる。天正 18 年 (1590 年) には、庄内地方で上杉氏が実施した太閤検地に反対する国人一揆が発生し、藤島城はその主戦場となった。慶長 5 年 (1600 年) の関ヶ原の戦いにともなう慶長出羽合戦により庄内地方は再び最上領となり、新関因幡守久正が藤島城主となる。しかし、元和 8 年 (1622 年) に最上氏が御家騒動で改易されて酒井氏が領主となると藤島城は廃城となる。明治 34 年 (1901 年) に山形県立庄内農業学校 (現 : 山形県立庄内農業高等学校) が建設されて現在に至る。

藤島城跡は今回で 7 回目の発掘調査である。最初の調査は藤島川の河川改修に伴う発掘調査だが、それ以降は山形県立庄内農業高等学校の校舎や学校施設の建設、改築に伴う発掘調査で、15 ～ 16 世紀を中心とした内堀の跡や井戸跡、建物跡など多くの遺構と遺物が確認されている。

今回の発掘調査も学校施設である老朽化したライスセンターを改築するために 237.6 ㎡を対象に実施された。

遺構と遺物

調査区が限られた面積であるため、遺構・遺物とも決して多いとは言えない量であった。

遺構は、井戸と思われる大型の土坑 2 つと柱穴を検出した。井戸跡は、掘り返して井戸枠を撤去した後に埋

め戻したと見られる。柱穴には、深くしっかりとした建物のものであろうと思われるものもあるが、建物として組み合わせることはできなかった。

遺物については、小片がほとんどで時期を推測するのも困難なものばかりであった。陶器では珠洲（すず）系、瓷器（しき）系の甕の破片、瀬戸美濃の灰釉皿の破片がみられた。磁器は中国産の染付であった。他に宋銭が出土している。遺物の年代は概ね 16 世紀とみられるが、一部の染付は 15 世紀に遡ると考えられる。

まとめ

今回の調査は 237.6 ㎡を対象としたもので、成果としては限定的である。しかし、従来の調査成果と同様に、藤島城全盛期の 15 ～ 16 世紀に及ぶ遺構の広がりと遺物を確認することができた。

遺跡が学校に所在する関係上、限定された面積の調査区が散在してしまうが、少しずつ着実に藤島城の姿が明らかになってきている。

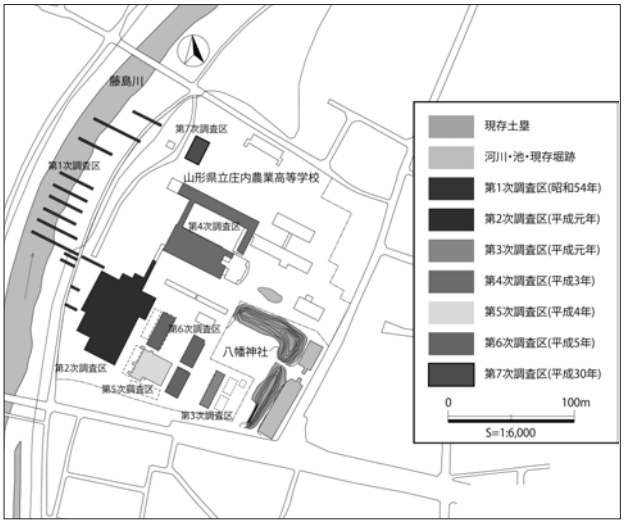


図 1　調査区概要図

写真 1　調査区全景（北西から）

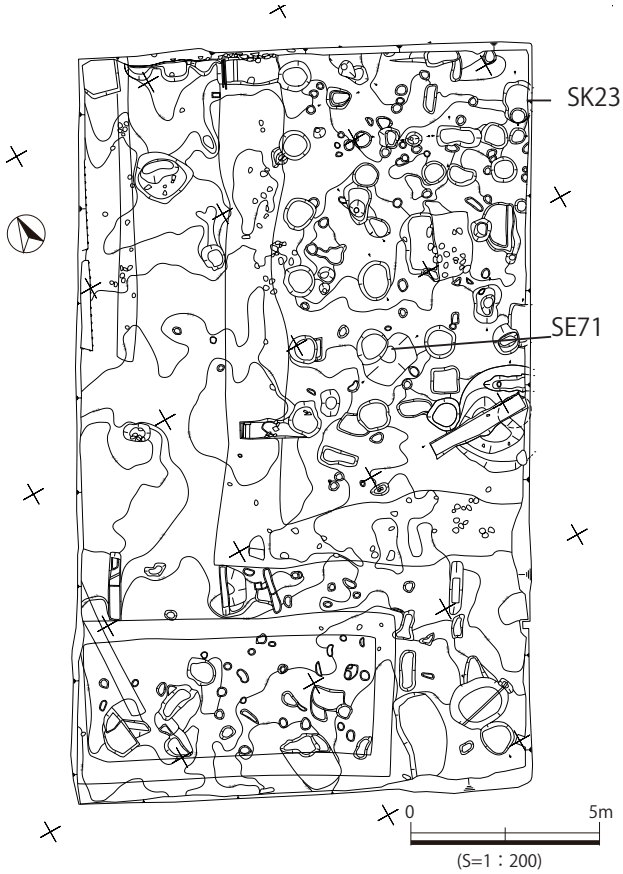


図 2　遺構配置図

写真 2　SE71 井戸跡土層断面

写真 3　SK23 柱穴土層断面